



飼育指導を担当した大澤光男客員教授(右端)と共に繭を収穫する農家の人々

消えゆく日本の伝統産業を後世に

今年、世界遺産に登録された富岡製糸場。これをきっかけに、明治以降の日本の発展を支えた養蚕業について知った人も多いのではないだろうか。世界一の養蚕王国として、高品質な生糸を輸出していた日本。しかし昭和に入

り、外国産の安い生糸、合成繊維の台頭などで衰退していった。

一方、今もなお、シルクロードとして栄えた地域を中心に、養蚕の文化は生き続けている。特にウズベキスタンは、中国、インドに続き、繭の生産量は世界第3位だ。しかし旧ソ連崩壊後は技術革新が進まず、生産量も質も下がる一方だった。



国際協力の担い手たち

国立大学法人 東京農工大学

日本の養蚕技術、海を渡る

蚕を育て、繭を取り、絹を生み出す。日本の養蚕業の人づくりに取り組んできた国立大学法人東京農工大学がそのノウハウを携えて渡った先はウズベキスタンだ。



現地にある物を使って作業を効率化しようと、繭を作らせる場所として紙製の卵ケースを活用

アトラスを手取る普後教授。ヨーロッパなどでこのカラフルなデザインが人気を集めており、加工すれば価値を上げられる



多くの観光客が訪れるヒヴァの旧市街



アトラスを使った商品の販売店に看板を取り付ける川端准教授(右)

日本で失われつつある養蚕業の技術をウズベキスタンに伝え、受け継いでいきたい。そんな思いで立ち上がったのが、蚕の試験場と農学校が統合して設立された国立大学法人東京農工大学だ。この大学でシルクロードと蚕の品種の研究に携わってきた普後一名客員教授は、20年以上前から、中国やインド、そしてウズベキスタンを訪れていた。その縁がきっかけで、2009年からJICA草の根技術協力事業を通じて養蚕業の振興に取り組むことになった。活動場所の一つは、養蚕が最も盛んな東部のフェルガナ。農家の技術も高く、確実に成果を残せると考えたからだ。もう一つは、最も気候が厳しい西部のウルゲンチ。ここで養蚕が成功すれば、他の地域でもできることが証明される。ウズベキスタンでは多くの農家が副業として養蚕に取り組んでいるため、基本的な飼育方法は知られている。しかし、普後教授らが農家を回ってみると、繭は色がくすみ、光沢も足りない。聞いてみると、使用しているのは中国から輸入した低品質の蚕の卵。飼育方法にも改善すべき点が多いことが分かった。

品質を高める小さな工夫

品質が良い生糸を作ることができれば、養蚕業は農家の生計向上に役立つはず。そこで普後教授らは日本から高品質な蚕を持ち込み、飼育方法の改善

に取り組むことになった。

例えば、蚕の餌となるクワの葉。ウズベキスタンは年中乾燥しているため、採ってきた葉を置いておくことばさばさになってしまふ。そこで、水で湿らせてたりビニールをかけたたりして管理し、蚕が幼い時は食べやすいように葉を細かく切って与えることを提案。また飼育箱に網を敷くことで、ふんを下に落とし清潔さを保つとともに、作業を効率化するため網ごと蚕を一気に移動させるようにした。そんな小さな工夫を一つ一つの指導していった。

「最初は、何だこの日本人は」と警戒する人もいましたが、別の農家で成果が出ると、自分もやりたいと言ってくるようになりまし」と普後教授。繭の品質が上がったことで、収入も2

割ほど増えた。「絹で人工血管を作る技術が開発されるなど、養蚕業は多くの可能性を秘めている。だからこそ、ウズベキスタンで発展させる意義があるのです」と期待を込める。

農家を支える新しい光

東京農工大学の取り組みには、もう一つ目標がある。ウズベキスタンでは、養蚕は女性の仕事。付加価値を付けて現金収入を増やし、女性の自立につなげたい。アラル海の研究などで20年以上、中央アジアに携わってきた川端良子准教授が目をつけたのは、この地域に伝わるアトラスと呼ばれる絹織物だ。

「日本にはない色合いは、吸い込まれそうな美しさです。今は伝統衣装に使



アトラスを使って農家の女性たちが作った商品には、日本で募集したアイデアが生かされている

われていますが、ポーチやシユシユ、コースターなどの商品作りを始めました。農家の女性たちに作り方を伝える講習会の開催、新しい商品の開発、販路開拓などに奮闘している。世界遺産に登録された観光地ヒヴァに販売店をオープンし、日本でも成田国際空港や関西国際空港での販売にこぎつけた。この取り組みを共に進めるウズベキスタン・ビジネス・ウーマン協会のケンジヤエバ・グルノーザさんは、「自分たちの力で新しい商品を生み出し、販売できるとは思わなかった。東京農工大との出会いを通じて、人生が変わりました」と笑顔を見せる。質の高い繭を作り、絹織物に付加価値を付けて商品に変える。日本の技術を受け継ぎ、ウズベキスタンの養蚕業はもって輝いていくはずだ。